

企画展

Botanical Art Worldwide

世界に向けて日本の有用植物 -植物に感謝-

前期 令和7年4月23日(水)～5月25日(日)

後期 令和7年5月30日(金)～6月30日(月)

練馬区立牧野記念庭園



2018年に好評を博した全米植物画家協会が企画する「Botanical Art Worldwide (世界に広がるボタニカルアート)」の第2回目が世界32の国と地域で開催されます。当園では、国内外で活躍する日本人アーティストによる、日本で伝統的に栽培される作物や生活の中で利用される野生種を描いた作品を展示します。牧野富太郎博士は、自叙伝などで「植物に感謝せよ」というタイトルをつけて、人間の衣食住が植物の恩恵により成り立っていることを述べていて、博士の関連の著作も展示します。

上：縮緬いぼ瓢 堀口美貴 (通期)
下・左より：ホオノキ 裏野洋子 (通期) / クチナシ 牛込敦子 (前期) / 鹿ヶ谷カボチャ 牧野すぐり (前期)



基本情報・問い合わせ先

企画展「Botanical Art Worldwide

世界に向けて日本の有用植物 -植物に感謝-

会期：前期 令和7年4月23日(水)～5月25日(日)

後期 令和7年5月30日(金)～6月30日(月)

5月26、28、29日は展示入れ替えのため、企画展示室は閉室します

休園：火曜(ただし、4月29日(火)、5月6日(火)は開園し、翌日が休園となります)

時間：午前9時30分～午後4時30分

入場：無料

会場：練馬区立牧野記念庭園記念館

所在地：東京都練馬区東大泉6-34-4

TEL 03-6904-6403 FAX 03-6904-6404

E-mail makinoteien@mist.ocn.ne.jp

URL <https://www.makinoteien.jp/>

展覧会関連イベントについては、チラシ裏面をご覧ください。

植物学者・牧野富太郎博士について

日本の植物分類学の父とされる牧野富太郎は、1862(文久2)年4月24日に高知の佐川村(現佐川町)に生まれました。幼い頃より植物に親しみ、ほぼ独学で植物を研究、東京帝国大学理科大学(現東京大学理学部)の植物学教室で助手と講師を長年務めました。生涯に発見・命名した植物は1,500種類以上、収集した標本は約40万点、研究のために収集した書籍は約4万5千冊にのぼります。また、“牧野式植物図”と呼ばれる正確な図を描いたことでも知られています。

1940(昭和15)年には代表的著作『牧野日本植物図鑑』(北隆館)を刊行しました。

1926(大正15)年に渋谷から北豊島郡大泉村(現練馬区立牧野記念庭園の所在地)に移り住み、1957(昭和32)年に満94歳で没するまでの約30年をこの地で過ごしました。



牧野富太郎、東大泉の自宅にて



牧野富太郎が原図を描いた『大日本植物志』に載るヤマザクラの図

牧野富太郎の代表的著作『牧野日本植物図鑑』北隆館、1940年



牧野記念庭園の紹介

牧野富太郎博士が1926(大正15)年から94歳で亡くなる1957(昭和32)年まで居住し、自らが採集してきた植物を植え、「我が植物園」として愛した住居跡を整備した庭園。牧野博士の没後、博士ゆかりの地を広く一般に開放し、博士の偉業を末永く後世に伝えようと、練馬区が1958(昭和33)年に開園しました。園内には300種類以上の草木類が生育しており、スエコザサ、サクラ‘仙台屋’、ヘラノキなど、学問的にも貴重な植物を多数見ることができます。



常設展示室では牧野富太郎博士が植物採集や研究のため愛用した道具などを展示し、研究活動や生活の様子を紹介しています。書屋展示室では書齋と書庫の一部を当時のまま保存。2023(令和5)年4月から博士が晩年過ごした様子に再現し公開しています。

練馬区立牧野記念庭園

開園時間：午前9時から午後5時まで
休園日：毎週火曜日(ただし、火曜日が祝休日にあたる場合はその直後の祝休日でない日)、年末年始(12月29日～1月3日)
入園料：無料

牧野記念庭園は東京都指定文化財(名勝および史跡)です。